

結核

私が消毒・消臭の事業をはじめて早々に、危惧せざる得なかったのが結核です。

1999年に「結核緊急事態宣言」が出されておりましたが医療関係者以外は、さほど気に留めていなかったと思います。

それ以前、「結核は国民病」と呼ばれた時代もありましたが遠い昔、昭和26年に「結核予防法」が制定されて以降は激減し、現代は抗生物質で完治する病だと危機感など持ち合わせていなかったと思います。

後に結核に関するデータ(下記)を見たときには少しも安心していられる状態ではないとようやく理解した次第です。

「厚労省の平成12年、新規結核患者は39,384人(罹患率31.0)、結核死亡者は2,650人。さらに世界人口の1/3にあたる20億人が結核に感染し、毎年800万人が新たに発症。結核による死亡者は年、300万人で途上国が多い。」

国別で見ますとカンボジア・フィリピン・インド・韓国・中国・インドネシア・パキスタン・ナイジェリア・南アフリカなどは蔓延国で70%以上を占めていますが公衆衛生上の問題のある国ばかりです。隣国がこの状態ですから頻繁に往来のある日本も中蔓延国です。

結核罹患率は群を抜いており、日本国内の集団感染事例も後を絶たない。

途上国からの外国人労働者の急増で減少する傾向には無い。

日本国内に住む外国人の多い地域ではゴミの問題など、途上国の貧困、公衆衛生上の問題の縮図が見て取れる。

厚労省によるとHIV感染者が世界的に増加する中で結核との合併感染者となり重症化が危惧されているようです。

以下 厚労省 FORTH から引用

HIVと結核

<HIV感染者は、HIVに感染していない者よりも、活動性結核を発症する可能性が20~30倍も

曲友(かねとも)

高くなります。

HIVとTBとは致命的な組み合わせで、お互いがもう一方の病気の進行を加速させる病態を作ります。

2016年には、HIVに関連して、世界で約40万人が結核で死亡しました。

2016年において、HIV陽性患者での死亡のうちの約40%が結核によるものでした。

2016年には、HIV陽性患者のうち140万人が新たな結核患者であったとみられています。

このうち、74%がアフリカで暮らす者でした。>

多剤耐性菌

<2016年において、多剤耐性結核は公衆衛生上の危機と健康の保障の脅威に留まったままです。

WHOは、約60万人が新たにリファンピシンへの耐性を示し、このうちの49万人が多剤耐性結核となったと見ています。

多剤耐性結核の脅威は、インド、中国、ロシアの3か国に大きく広がっており、世界の半数近くを占めています。2016年には、多剤耐性結核の約6.2%がXDR-TBでした。

現在、世界で多剤耐性結核患者の治療成功率は54%、超多剤耐性結核は30%に過ぎません。>

それだけでなく結核は肺以外にリンパ節、骨(脊椎カリエス)、脳にも症状が出ることは昔から知られていることですが更に厄介な問題となっていて「再興感染症」として再び注目すべき疾患になっているとのことです。

「多剤耐性結核菌」から「超多剤耐性」へと薬剤の耐性が拡大した結核菌・・

治療がかなり困難なことは素人の私にも理解できます。

仕事柄、孤独死現場にも入ることがありますので一層の注意が必要だと思っています。

死因によって危険なのはいうまでもありません。